

10月18日は『統計の日』

統計から見た！

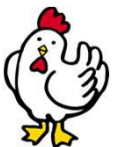
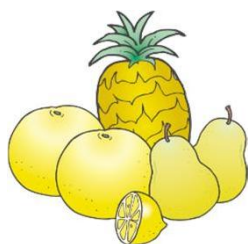
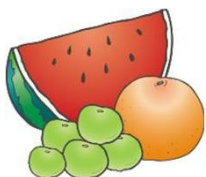
九州の農林水産業



令和8年10月

目次

1	10月18日は『統計の日』	10	麦の生産状況
2	農林水産統計今昔	11	主な野菜の産出額
3	農林水産統計の役割	12	主な果実の産出額
4	農業構造（農業経営体）	13	畜産の産出額
5	農地の利用状況	14	ジビエ（野生鳥獣肉）
6	農業産出額の特徴	15	林業の概要
7	農業産出額の推移	16	漁業の概要
8	市町村別の農業産出額	17	使ってみました 地域の農業を見て・知って・活 かすDBの活用事例
9	米の生産状況		



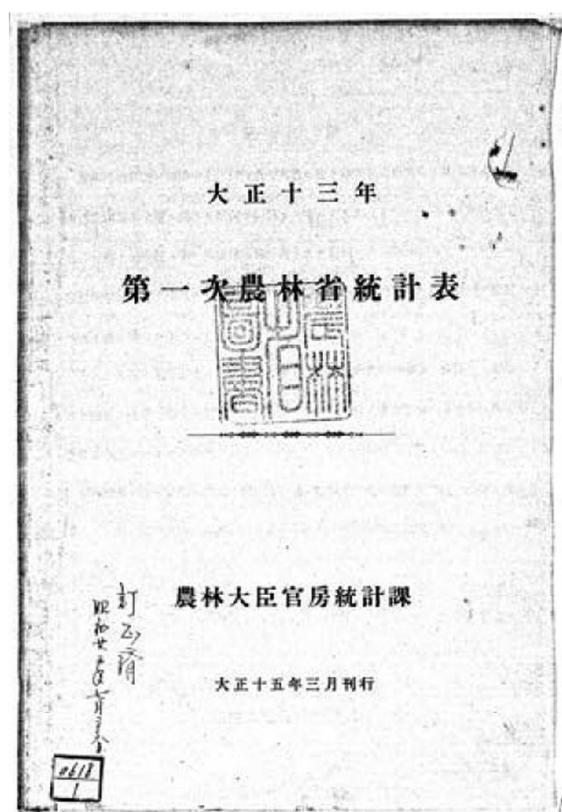
10月18日は『統計の日』

「統計の日」は、国民の皆さまに、統計調査の重要性への関心と理解を深め、調査へのより一層のご協力をいただくため、政府によって昭和48年(1973年)7月3日に定められました。

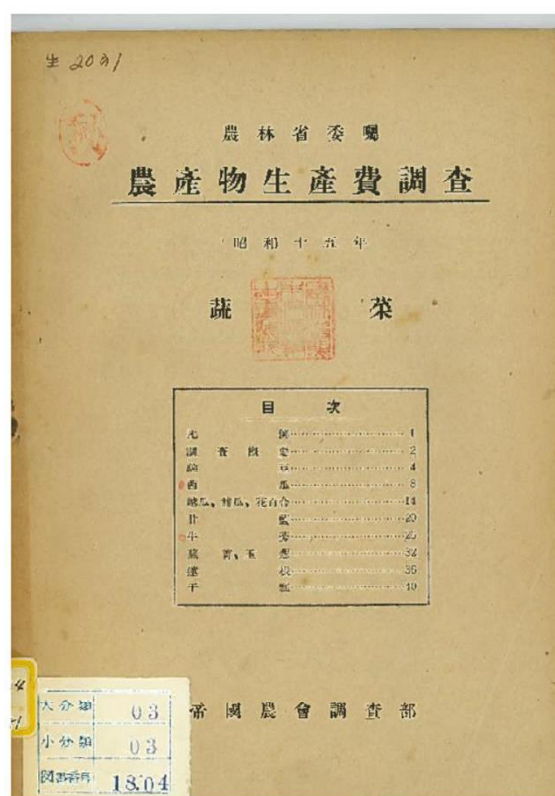
★「統計の日」の由来

明治3年9月24日(1870年10月18日)に、日本で初めての近代的生産統計である「府県物産表」(農林水産物と鉱工業生産物の生産高をまとめたもの)の太政官(だじょうかん)布告が公布された日に由来しています。

■ 第一次農林省統計表(大正13年) ■



■ 農産物生産費調査(昭和15年) ■



左は、大正15年(1926年)に農林水産省(当時、農林省)で発刊された大正13年(1924年)結果の統計書です。その後、毎年、各種農林水産統計データを掲載した「農林水産省統計表」を作成しています。

右は、九州農政局に保管されている最も古い統計書です。昭和15年(1940年)に発刊された「農産物生産費調査 蔬菜(そさい)」で、「すいか」、「ごぼう」などを生産するために要した費用が掲載されています。



農林水産統計今昔

■ 昭和15年農産物生産費調査(雑穀) ■

九州農政局で保管されている最も古い統計書(昭和15年農産物生産費調査(雑穀))です。調査対象品目や取りまとめ項目は時代を感じますが、現代とおおむね同じ項目になっています。調査方法等は現在の調査方法と異なりますが、当時の農業形態や背景がみえてきます。



面積の単位が「反」(現在は「a」、「ha」)、重さの単位が、「石」(現在は、「kg」、「t」)となっています。

また、価格の単位が円以下(銭)で記載されています。

調査品目「粟(あわ)」や「燕麦(えんぱく)」など、今ではあまり栽培されていない作物も当時は調査していたようです。

数量									
品名	単位	数量	単価	生産費	消費費	販出費	販入費	販出費	販入費
大豆	石	0.87	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

畜役費									
品名	単位	数量	単価	生産費	消費費	販出費	販入費	販出費	販入費
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

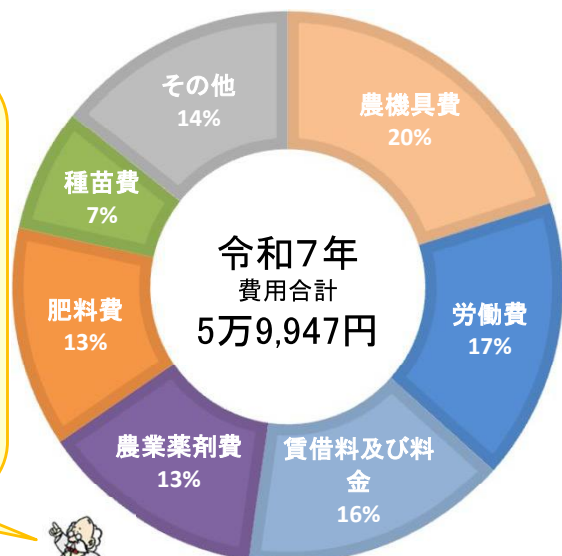
調査項目は、「種苗費」、「肥料費」、「薬剤費」など今の調査でも使用している項目もあるけど、「畜役費」なんて項目もあるようです、今は「農機具費」ですね。

資料：帝国農会調査部「作物統計」昭和17年11月発行

■ 現在の調査結果と比較 ■



昭和15年では、「家族労働費」が約4割を占めていますが、令和7年の「労働費」は約2割と半減しています。それに変わって、作業委託費の「賃借料及び料金」が増加しています。また、「畜役費」に変わって「農機具費」の割合が多くなっています。



()の額は、大学卒初任給で試算
昭和15年 80円
↓(約3,300倍)
令和7年266,000円

※ 昭和15年の調査は、現在(令和7年)の調査方法とは異なることから、単純に比較は出来ませんが参考として掲載しています。また、年内給生産要素費用から、費用合計に含まれない資本利子を除くと 25.55円(8万4,315円)となります。

農林水産統計の役割

農林水産統計は、農林水産行政を支える「情報インフラ」として、食料・農業・農村基本計画等の各種計画に基づく政策目標の設定や評価、各種作物の需給安定対策等の発動基準、国の財政支出の算定根拠、農林水産業の現状の分析などに広く活用されています。

また、「公共財」としての役割を担っており、国民の皆さんが自由に利用することができます。

公共財としての農林水産統計

日本の農林水産業の実態はどうなっているの？

自給率が低くても大丈夫？
今年のコメは不作なの？

農業の課題はなに？
農業経営体数や農地などの状況は？

生産だけの経営から、
製造加工・販売を加えた事業展開が増えているのかな？



- どんな農畜産物が作られているの？
- 農地はどのくらいあるの？

- 農業経営体の数はいくつ？
- 農業従事者の平均年齢は？
- 森林の面積は？

- 農産物を生産するのにいくらかかるの？
- 農業の収入はどのくらい？

- 6次産業化は進んでいるの？
- 売上げや従事者数はどのくらい？

誰でも利用できるよ、農林水産統計を見てみよう！

◆作物統計調査(R7年、九州)

耕地面積 : 498,000 ha
耕地利用率 : 101.8%(R6年)
水稻収穫量 : 767,400t
水稻10a当たり収量 : 513 kg

◆畜産統計調査

(R8年2月1日現在、九州)

肉用牛 飼養戸数 : 13,800戸
飼養頭数 : 901,400頭

◆農林業センサス(2025年、九州)

農業経営体 : 131,378経営体
基幹的農業従事者数 : 171,538人
基幹的農業従事者平均年齢 : 66.3歳

林野面積 : 2,677,426ha
林野率 : 63.4%

◆農業経営統計調査(R6年、九州)

営農類型別経営統計
(全営農類型平均1農業経営体当たり)
農業所得 : 1,834千円
米生産費
(個別経営資本利子・地代全額算入生産費)
60kg当たり生産費:16,481円

◆生産農業所得統計(R6年、九州)

農業産出額 : 2兆445億円

◆6次産業化総合調査(R6年度、九州)

農業生産関連事業
総販売金額 : 4,390億円
総従事者数 : 6万2,400人

漁業生産関連事業 ※九州各県の合計値
総販売金額 : 583億円
総従事者数 : 6,400人